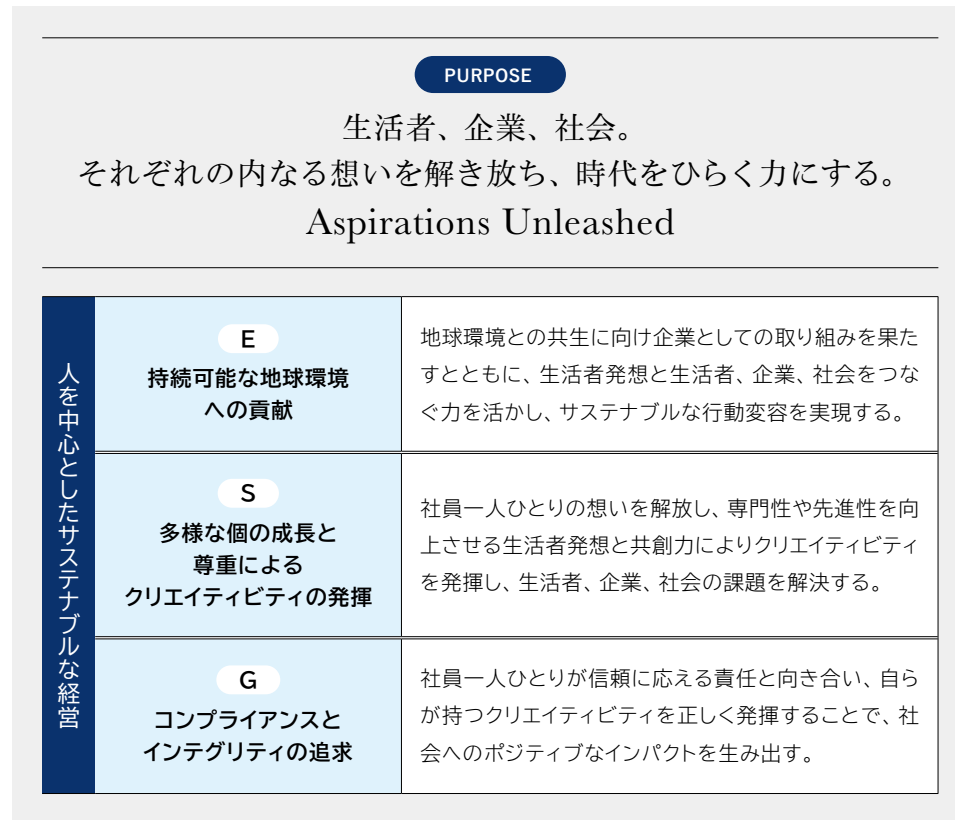


## 博報堂DYグループのサステナビリティ

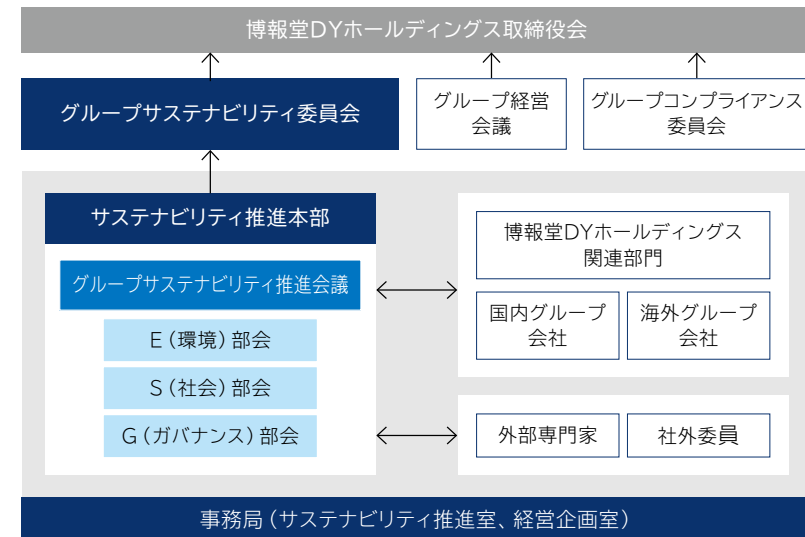
博報堂DYグループは、「人を中心としたサステナブルな経営」を推進するため、2024年、サステナビリティ方針および2030年に向けた重要課題（マテリアリティ）を特定しました。自立と連携の考えのもとグループ各社の事業特性や強みを活かし、当社グループらしいサステナビリティを推進していきます。

### サステナビリティ方針



### サステナビリティ推進体制

取締役会を意思決定機関としてその下にグループサステナビリティ委員会を設置し、サステナビリティに関わるテーマを討議しています。グループ各社での実行力向上にむけ、サステナビリティ推進本部を設置し、グループ各社のサステナビリティ担当役員が参加するグループサステナビリティ推進会議とグループ各社の担当者が参加するESG部会で推進しています。



#### 2024年3月期の議題

第1回グループサステナビリティ委員会	第2回グループサステナビリティ委員会
・人権デュー・ディリジェンス、社会貢献活動の推進報告	・環境、人権デュー・ディリジェンス、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンの推進報告

博報堂DYグループのサステナビリティ

## Dialogue

# 人を中心としたサステナブルな経営で、生活者の想いがあふれる社会を実現する

博報堂DYグループのサステナビリティ推進本部（ESG部会）では、グループ各社のサステナビリティ担当者が参加し、グループでの取り組み方針や各社の進捗共有、ESGテーマごとのディスカッションを行いながらグループのサステナビリティ活動を推進しています。今回、グループ各社のESG部会担当者が集まり、各社のこれまでの成果や抱えている課題について有松社外取締役を交えて語り合いました。



(左から)

ソウルドアウト  
HRディビジョン  
サステナビリティ  
推進室

大広  
経営戦略本部総務局  
局長

Hakuhodo DY ONE  
上席執行役員

読売広告社  
グループキャリア  
デザイン局  
局長

社外取締役

博報堂／博報堂DYメディア  
パートナーズ  
経営企画室  
サステナビリティ企画部  
部長

博報堂テクノロジーズ  
HR戦略センター  
人事一部  
部長

博報堂DYホールディングス  
サステナビリティ推進室  
室長

博報堂プロダクト  
総務室広報部  
サステナビリティ推進チーム  
チームリーダー

初沢 岳

佐藤 裕明

黒須 徹弥

太田 理奈子

有松 育子

船越 啓

木内 綾子

中島 静佳

押本 有里子

## グループの自立と連携でつなぐ、各社のサステナビリティ推進体制

**中島** 当社グループでは、2022年よりグループのサステナビリティ推進体制を強化してきました。各事業会社ごとにサステナビリティ担当役員、E（環境）、S（社会）、G（ガバナンス）担当を配置し、グループサステナビリティ方針のもと、事業会社間で強みや課題を共有しながら、各テーマごとの取り組みの実行力を高めてきました。

グループサステナビリティ方針は、グローバルパーパスならびに新中期経営計画を踏まえ、「持続可能な地球環境への貢献」「多様な個人の成長と尊重によるクリエイティビティの発揮」「コンプライアンスとインテグリティの追求」の3つの領域において取り組むべき9つの重要課題を特定しました。これらの取り組み領域を起点に事業会社の皆様と連携しながら生活者の想いがあふれ、いきいきと活躍できる社会の実現を目指していきます。

本日はサステナビリティ担当メンバーから各社の取り組みを共有していただきながら、有松社外取締役よりご意見をいただきます。

## 博報堂DYグループのサステナビリティ



**佐藤** 大広では、2016年に発足したLGBTに関するシンクタンク「LGBT総合研究所」や、2017年にスタートした、誰もが心おきなく活躍する職場づくりプロジェクト「COCOプロジェクト」など、早くからサステナビリティ意識は醸成されていたのだと思います。一方で、社内連携が取れておらず、会社全体の取り組みとして遅れてしまっていることが課題でした。そこで、コーポレート部門の部長クラスを中心に、サステナビリティを推進するプロジェクトを発足しました。トップダウンだけでなく進めるのではなく、それぞれの部門が進める取り組みを連携させ、会社全体としてのサステナビリティ推進スピードを速めることが狙いです。

**黒須** Hakuholdo DY ONEは、デジタルマーケティングを事業ドメインとするアイレップとデジタル・アドバタイジング・コンソーシアムの2社が経営統合し、2024年4月に誕生しました。若い社員が多く、男女比率も

半々で、女性管理職比率は25%です。一方で、本質的な課題は、勤続年数の短さです。市場の成長に合わせ組織が急速に拡大した会社に共通する悩みかと思いますが、顧客への成果提供のため取りうる広告手段が多岐にわたり、プラットフォームの仕様変更など変化も激しく、労働負荷が高いことが挙げられます。この業務そのもののあり方を変え、生涯取り組める仕事にすることが重要だと考え、トップダウンや人事からのお願いへの対応でもない、現場と人事が共同でリードする取り組みをスタートしました。所属や年齢、入社の日経緯等が多様なメンバーで構成し、課題解決に向けて活動しています。

### 社員一人ひとりのキャリアパスを捉え直す

**太田** 読売広告社では2021年に新しい経営体制になったことを機に、広告業界ではなかなか両立が難しい「ワークライフバリュー」の実現を掲げ、男性育休取得率100%をはじめとした様々な施策を実施しました。当時は男性育休を取得した社員が13%と低く「会社が変わろうとしている」ということを、経営から社員に示すことが重要だと考え推進

し、翌年100%を達成しました。

2022年より、「Y-PRIDE」という独自のパルスサーベイで、一人ひとりのウェルビーイング指標を毎月モニタリングできる仕組みをつくり、2023年には、公私ともに充実した人生を送るために「ライフキャリアサポート窓口」を立ち上げました。社員一人ひとりのデータによる定量情報と、対話による定性情報の両輪で見ていくことが大切だと考えています。

**木内** 私が所属する博報堂テクノロジーは2022年に設立した会社で、博報堂DYグループのテクノロジー戦略を担っています。サステナビリティ推進の活動は、2023年度にDE&Iに関する分科会を設置し、まずはじめにDE&Iを自分ごと化してもらうために社員が働きやすい環境整備に取り組みました。仕事と子育てについて気軽に話せる交流会の開

催や、近距離であっても新幹線通勤を認めるなど、時間に制約のある社員の働き方をサポートしています。また現在、女性比率は20%、女性管理職の割合は16%となっており、テクノロジー人材自体に女性が少ないことから、テクノロジー人材だからこそできる場所・時間にとられない柔軟な働き方を推進し、将来の女性比率向上につなげたいと考えています。

**初沢** ソウルドアウトでは、事業の軸を「地方を含む、中堅・中小企業の挑戦者に向き合う課題を包括的に支援する」とし、現在全国に23の拠点を展開しています。サステナビリティ推進についても地域コミュニティへの貢献という観点を重視して取り組んでおり、地域の課題やその独自性を理解しながら、サービスを提供しています。



## 博報堂DYグループのサステナビリティ

2021年には、岩手県釜石市および島根県雲南市と「地域活性化起業人制度」の協定を締結し、それぞれの自治体へ社員を派遣しています。社員がこれまでのキャリアで培ってきたスキルやノウハウを活かし、地域を活性化させる取り組みを行っています。これからも、地方を含む全国の志ある中堅・中小企業の支援を続けていきたいと考えています。

**船越** 博報堂／博報堂DYメディアパートナーズでは、2024年にサステナビリティ企画部を開設し、DE&I推進に着手しています。当社では、「粒ぞろいより、粒違い」というカルチャーがあり、多様で異なる個性を尊重する文化があります。そのため、社員一人ひとりの個の力を発揮できる環境整備を目指し、2018年よりワークスタイル変革に着手しました。「働く時間の意識を変える=Time Value Management」のための方針を掲げ、施策を講じています。まだ道半ばではありますが、「思い切り働いて思い切り休もう」という声掛けのもとに、質と量の両面からの働き方改善を目指しています。

### 生活者の行動変容に向けた クリエイティブ性の発揮

**押本** 博報堂プロダクツは、従来のプロモーション領域に加え、デジタルコミュニケーション、コマース、BPO・BPS、IT・DXなど多様な領域で事業を展開する総合制作事業会社で、ものづくりを通じたサステナビリティ活動を推進し、環境問題に取り組んでいます。

ビジネスを通じて社会課題解決に貢献したい社員約30人を集めて発足した専門プロジェクトチーム「サステナブルエンジン」が主導して制作した1つに「もみがらノート」があります。「廃棄物に新たな価値を与えて再生させたい」とクライアントから相談をいただいたことを機に、グループ連携でアップサイクルに取り組んだ成果です。博報堂と博報堂DYメディアパートナーズが農業体験研修の場と



もみがらノート

して活用している「はくほうファーム」から排出された粉殻を使って開発した独自素材を用い、当社のデザイナーが「循環」をイメージしたデザインを盛り込み完成させました。ノートにした理由は、常に持ち歩いて、未来へのアイデアやふと気になった言葉を書き留めたり、イラストを描いたり、次のアクションにつなげてほしいという想いがあったからです。この取り組みで得た経験を、さらなる環境負荷低減施策の考案や、クライアント向けの循環型ソリューション開発などに活かしていきたいと考えています。

### 社会課題の解決という役割を意識し、 取り組み続けることが必要

**有松** サステナビリティ推進の取り組みは、「なぜそのようなことをしなくてはならないのか」と思っている人がまだまだ多い段階だと思いますが、これは企業活動を続ける上で避けて通れないものだと、グループの社員の方々にしっかり理解していただく必要があります。今回各社のサステナビリティ担当メンバーからお話を伺って、これからもこうした機



会を多く設け、社員の方々の間で共有できれば、徐々に意識を変えていくことができるのではないかと感じています。皆さんは、まだ一歩を踏み出したばかり、とお感じになっているかもしれませんが、重要なのは、歩みを止めないことです。当社グループは、サステナビリティ推進を世に広める、行動変容を訴えかけるといった点においても、社会から期待されていると思います。サステナビリティ推進本部ができ、ここを中心に連携しながら、当社グループらしく各社がそれぞれの個性を活かした形で進めること、さらには自社の課題だけでなく、社会課題の解決という役割を果たすことを意識し、進めていければと思います。